

# 円形脱毛症 髪も眉も

「かつらは生活に欠かせない」と話す円形脱毛症の女性患者(本人提供)



髪の毛から眉毛まで、すべての毛が抜ける「円形脱毛症」の原因は解明されておらず、完治する治療法もない。子どもや女性も発症し、本人や家族の精神的、経済的な負担は当事者にしか分らないほど重い。患者団体は、病気への理解が広がるようお願いしながら、かつら購入への健康保険適用など、負担軽減策を求める署名運動を始めている。  
(千葉雄高)

## 全身に至るケース 治療法確立されず

昨年の春先だった。幼稚園から、次女(6)が泣きながら帰ってきた。

「『はげ』って言われた」

東京都内の40代の夫婦が次女の脱毛に気づいたのは、その数カ月前の06年末。母親が次女の髪を結ったとき、後頭部に数カ所、コイン大の脱毛を見つけた。「なんだろう」。ちよっと前の風邪の影響かと思った。

## 難病指定など求める声

### 患者らが署名活動

先月29日、福岡市で「毛髪科学研究会」が開かれた。集まった毛髪治療の研究者を前に、患者団体「日本円形脱毛症コミュニケーション」(会員約50人)がピラを配った。患者でもある岡田幸雄代表(53)が昨年7月につくった団体だ。今年3月、厚労省に難病指定や、かつら購入費の軽減策を求める署名運動を始めた。すでに約3千人から賛同を得た。「髪の毛がみるみるうちに抜け落ち、顔つきまで変わってしまうショックは言葉にしがたい。少しでも患者が社会生活を送りやすくなりたい」

署名についてはホームページ(<http://jaac.info/>)で。

まもなく、頭に触れるだけで髪の毛がすーっと抜け落ちた。寝るときは枕が、風呂に入ったときは浴槽が、髪の毛で真っ黒になった。年が明けて07年1月には、髪も眉毛もなくなった。

大病院で治療を続けるが、生えてくる気配はなく、次女は幼稚園で泣く日が多い。母親が「先生からお友だちに注意してもらおう」と言っても、「いい。がんばる」と応える。

来年4月、小学生になる。子ども向けのかつらはあるが、体育の授業

では隠しきれない。

主治医の順天堂大医学部の植木理恵准教授(皮膚科)によると、全身にいたる円形脱毛症を根治する治療法は確立されていない。紫外線照射やステロイド服用などによって発毛を促す治療法はあるが、効果には個人差がある。改善の兆しが出て再発率は70%以上。思春期以前に発症すると、重症化、長期化する例が多い。植木准教授は「命にかかわる病気ではない」と研究が進まなかった面もある」と話す。症状を隠す傾向があるためか、正確な患者数も不明だ。

### かつらに数百万円 健康保険は適用外

「かつらを買うために、働いたよるなものだった」と都内のパート女性(41)は振り返る。

20歳のとき、10円玉ほどの大きさの脱毛が3カ所でき、数カ月で頭と顔の毛がすべて抜け落ちた。就職す

る時、「かつらに頼るしかない」と親が50万円のかつらを買った。それ以降、修理代、予備のかつら代、と数年ごとに100万円近くかけた。「みんなに知られているのでは」。そう思うと、胸が押しつぶされる。一つの職場で長く勤める勇気がでない。6、7回、転職した。そのせいで収入もなかなか増えない。付き合いも減らし金をためた。「粗悪なかつらを数十万円で購入してしまっただともあった」

全頭型のかつらはオーダーメイドが大半で、価格は20万円以上。数年で買い替えも必要だ。それでも健康保険は適用されない。厚生労働省は「治療に結びつかないと適用できない」との見解。例外的に認められているのは義手や義足などわずか。「かつらは外見向上だけのモノ」との位置づけだ。

**円形脱毛症** 細菌などから体を攻撃することで発症する。リウマチと同様の自己免疫疾患の一種。軽症の場合はコイン大の脱毛で済み、自然治癒することが多い。しかし、重症化するると、ひどい場合は全身の体毛が抜ける。

**ポイント**

逆毛をつくる細胞

を攻撃することで発症する。リウマチと同様の自己免疫疾患の一種。軽症の場合はコイン大の脱毛で済み、自然治癒することが多い。しかし、重症化するると、ひどい場合は全身の体毛が抜ける。